

鹿沼彫刻屋台のヒミツ「子宝の玉・願いの叶う玉」～彫刻屋台と籠彫り

鹿沼の彫刻屋台には、獅子や龍の彫刻がたくさん見られます。

鹿沼市の屋台のまち中央公園展示館に展示してある彫刻屋台のうち、中央の彩色彫刻黒漆塗屋台である久保町屋台には獅子が毬と戯れている彫刻がみられます。

展示館の一番奥の銀座二丁目屋台は、白木彫刻白木造屋台ですが、まったく彩色が施されていないのではなく、よく見ると龍の火焰は赤く色づけられています。そして、龍が玉をつかんでいる彫刻も見られ、この球は青色と緑色の彩色が鮮やかです。龍の持つ玉は如意宝珠（にょいほうじゅ）と言って、サンスクリット語で「意のままに様々な願いを叶える宝の珠」という意味だそうです。

また、鹿沼の彫刻屋台の中には、籠彫りという技法で木を籠状に彫りぬき、籠の中の木の玉を自在に動くように残すという高度な技術が用いられた彫刻も見られます。上田町（後高欄下）、中田町（前蹴込）、天神町（後蹴込）、東末広町（前蹴込）、上野町（後蹴込）に獅子の毬があり、泉町（後障子）には鳥かごが彫られているなど、鹿沼の彫刻屋台の何台かに籠彫りの彫刻が見られます。実際に屋台をご覧いただいて、彫刻の中にある様々な題材を探すのも興味深いことでしょう。

今宮神社氏子町の古老によると、昔子宝を授かることを願っていた夫婦がこの籠彫りの玉に触れたのちに、待望の子宝に恵まれたという伝承があるそうで、これは獅子が毬を転がしている彫刻に、「物事がうまく転がるように」という意味がこめられ、龍の持つ如意宝珠の彫刻には、「意のままに様々な願いを叶える」という力があると信じられていることがそのいわれの始めであるのでしょう。

残念ながら現在の鹿沼の彫刻屋台には、一般の方が直接手を触れることができません。しかし、屋台のまち中央公園展示館入り口正面の柱には、鹿沼の彫刻屋台の彫刻を数多く手がけられ、鹿沼の名匠にも認定されている彫工、黒崎孝雄氏の彫られた大きな彫刻が展示されています。

ここでは彫刻の立体感や細かな部分をよく知っていただくため、直接手で触れることができるようにしていますが、この躍動感のある彫刻は、龍が籠彫りの玉を持つ珍しい作品で、彫刻屋台の籠彫りとまったく同じ技法で木を削り貫いて彫り上げられています。

来場者の方からは、獅子の籠彫りの毬や龍の如意宝珠のパワーを信じ、「子宝の授かる玉」として、また「様々な願いが叶う玉」として、ご利益を願い日々触れられ続けています。